2809

序

花と咸陽宮中の雨月と渭水茶亭の
樓上無尽の月と物外郷異境の金堂
の間の雲物を尋ね、動
者は弟子兼ねても散士爲ると雖も
行者は養性の士、婦女の情も深き事を無
よりの兼好とぞ言ふ。

草廬より出でて遠望する人
例の小冊を著して席を彼馬と
さして鹿といふ秦皇の詩をうぐ
花嬢とさしてこれを意氣地の
集まるを待けり通ふ是は
とてもあれ心の駒の
茶亭色八幡の借りまうと

鐙をうんぬるとまうと四
ちくしやうまうえ能寄石へ少
ばかりと傾城も又数寄さの
付て小栗本間の遣人も一
むしろ弟子禪師走
今也傾城傳受と覚
ぬ者少ぞ侍由馬もあらう

鬼鹿毛ごとく荷き貫婦も
一鞍す森木鞍うんす丈ゆう
ゝレこのうぞくしくとゆくしるし
おうぶとうぞくおうぶ
北嶽代くく遊好人
序ぞうもうもうもうもうもうもう

序

嬰情よ実なと聖くく笑へう和
坊ゆう赤功討伽明しとよ運
盗ゆうゆう冊しと思へいゆう有とと
バ冊ぞ反偽故人乃懐紙巻ものは
て若を離う事水虎の庭ゆうぞ

筆を筆にそへて
をゝ屋にとゞけゝ
雙一ツ擬し
ゆくゝと明
ゆくゝと明
ゆくゝと明

心社
心心
迷須
哉
弁面

心の駒の
之農
手綱弛奈

遊び山人著

欲情買人傳

とかくのひそうそう奥集に八人ぶぜけへせいよりやうれ
とり有にのなせとうしぐんさうはんつくく武士
ときこゝろをたこのうに貧しくて大法をとこさ富
て切を放まうろく朋よ忌憚を遷多く遷ふ湯
ゆくうり鄰くく山人うと貴賤ふぐうりなうれハ考
をそうと世ぞ利ゆうをうりうくく考しとと為て欲情
りんをとさてうりんうにるの人を問よして考りんの乳と

奉ちる事なく命ずる事を馬術の
故ニ天地父母ノ手綱ト云有父ハ制シ母ハ救フ
ノ意味亦中傳ノ正中五方ノ鞍ハ我躰
前後左右ノ鈎合ニシテ鬼ノ拳ヲ以テ強
クシテ強カラズ弱ヲ以テ強キニ勝實先
師ノ教誡テ可敬也ゑたまさかの智
慮法術をもてのつとめとしてくのるべ人ハ信ずの
むりしよりは乱れあ〜いくんとをもつて弟時

弟時乱れあらの上はにくをもつて命ずること脇を
大功をなすべきなりとも兎ぐるにはげ乱れとも
あらをこの川くみの風をかつて慮を制し実を
いつくりあるべ方弟子著やりてあらうべ
はは五方の移り合をもく時は鞍合所に
側ゆるいつ鈎合はいつ引けをもてさぐる
とものこをものをもを切りてくを鈎合を整し男
乱をとんとを語くてはよろづの悔をみあらの

人と接する事

一 ものれるいろもうらべ
一 中くるゐるゐふぎゆち
一 いろ手行るい虫のちびく
一 うへ氣するいあきゆと
一 激するいちん ふろ
一 慢するいろ氣使ひて
一 ちびるるいきちるてゆたく

ゆくしていきぢうあ情ふきこをまとの
校居たこ三ヶ月ほどの深とろくかんぐふ居ちこ
今世ちのろ男れ男の川絡とんふ者のあるる
ちびるるく世ろゆ氣ふ合てるよ虫の合人義
上日長ゆりるく変ゆ合てるちんちびるく手
ちんるくびいあるいろ氏虫の有並ちんび
男ろ言葉ちぎきびの向ちるちりとるちか
ちんびゆりるくこちこ傷るの

どうしのるるかたちとりの雅楽さとりを相撲する
ふうりゅう扇のうつくしひ所すりて其のとる
とりとりのべ

和合上中下三段乃定雅楽

上の巳定調 [illegible]

[illegible]の会合の舞人[illegible]
あんれかすれ[illegible]
[illegible]実ふんをとりとりて通ずる

[illegible]
人はいくちまべけいせいとくに同じくうるべ
そのこの庭をかのうとる
[illegible]拍子 拍子てんへまんまをおたんうんぜんく人 [illegible]
くて後へうの扇とれかもへばとも少んぞ拍
てりとくあべな [illegible]拍子おあのてぐてんぐんまを [illegible]
ちりくおくるりなんしるる [illegible]あんへがうるるうう
後くあうりとと [illegible]まうひいひがうまをりうく
あうるゆくるるん [illegible]あうりぜんよ いひうぐうるゆと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人ちまたくいろわどゝ情をうきるとまかよ
間ぞうりとそ手紙をあとへたゝ紙をすりめく
そのかゝ間　をなりかけよ
空しきはさまりられへかことをいてあを
くひめくのさくらくとのるをかたよ
そうにやりえは月のあらへんすとるく
とひく自分ちそのおゝ
屏風のかりう絵うんとるくまんまをと天

十四

て今ちきにまうりとうゝとゝ夜を
いてゝりされべあしすとれべ虫あり
うとゝ屏風くとをうぞうひいぞる
人のあのの絵をを書て時とうゝし
それうかれとまひやつりやうどを
くうゝ行らいそひでまゝ屏をはきへ
ゆり　絵のんしあり（寅）ハゝ絵くとゝ（卯）
あゝとの天人をいとゝ（寅）ほとき イヽヤ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

これをいのんまつのもりでらへ
あがんぐに出るんとおがたがうがるくいと
それぐに出るんしてらへ
かうそうでとひてくりひまぐ
是をやとまりのそばまで
の男人ゆかるに成なたてらけとらふ
なぐに男人すぐ聞されくだりあるらす
大きなる木をきりたおすぐをかくやうなる
ものをみるまもあれがはんきせるこまを
いりがしとうぐつくやうに
つりやとこに
かくぼ者中にいでぞ
男の
このつちのとうこを切
りたおすぐあるいせ
いの神
今ゆりくの人神がとひとられる中
どやとくまちどとひ物どやり神くれと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なまぐさものをくわせたらいとしがりてはなれずにつ
いてはなれずにゐるものなり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

度も同里一さとあきんどとよく
をくいひしぐるふのうのこれい
めらのつまとそのろきゝさるる
所をたゝきをりうさそなとたんの
うをうん
歳句よ

うまのまやりのよの前よ嘶
けんをうんぐきすりぐきまま
あ数い まうーきうさと

下乃宝河
万葉集乃哥ゝ同ゝ
られぬ月ハ、この樹のゝ
ゝ
ゝ

せんぞうむごんよくそれようどき
はさはりゆうりうとめしを喰人の
うりうこ日くれぐるをこうくらひてこん
る時ごれさんが病べいとらちの
ものあるをとらひしぐんぐあるを嫌けんの
ホするをんすよなれば今へぜひなく
りうぐるへ切るんれべむりとするゆゑ
あどこの大をほうまなるれいる程

ゆうりうのぜ孫うんせんへ 図 おりんのうるのを待
てるりこ 四 きうひきんぐんつる 図 がうぐぎん
こんるえるみをかいてなる色男ごんうまこ用
とゆりをの乃 四 ゆうちゃア美男ごの美る
ぐのくとんるいゆくしひきんきうひきう

ひさ 図 こうくわうたひらげて 図 きうくつて
とりつけ 図 東そと 図 ゆくを 図 いつを
ゆきてくたること 図 人をいつを
人をいつをのへ 図 ゆくをひりのう ゆくをくれすの
うゆく 図 ゆくをくれ 図 これをたまことのあくびの
うの 図 人のうるまも 図 ゆくをけいせい
ほうくぎをてくなんく ゆくをうくうくを 図 人が
ゆくうくゆくりひう 図 こんぐせるのうつゆく

ゆくうくを 図 ぬくしくなるゆくうくを何ようぐゆくを 図
なくわど氣のきいこんぐ 図 こんぐ 図 かんぐこん
図 人虐もくみぐ成もひぐらくまくよ 図
こんぐ 図 ゆくせこいつを若男せうぐゆ 図 中東が吉ゆ
ゆくを神ゆう金ゆくゆくの猛ゆくゆかりの乃
ゆくうこの音猛ゆくれぐゆくゆくくくゆ
うくうぐうくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ
こんぐゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のこいこゝろのすゝをしく柳おろしまこゝろ
[illegible]柳ゝ抜ゝそのなんぶんをんなまま
ひのどもゝ稼ゝうゝゝかゝゝゝゝ仕切出
しゝゝゝゝてゝゝゝゝゝゝゝ二分ハ抜ゝつゝ稼人ゝ
いゝ出所のふゝとしてゝ抜ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ稼ゝゝゝゝゝ生国柳生村ゝゝゝゝゝゝゝ
いゝ女ゝ身ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ人ゝ身ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
考へべしとかくハ来にたる事
右神書三段の宝雑さはかり同のようそ
いろく書きつるへくなれども[illegible]
乃宝洞考ニつる五の宝洞ハ[illegible]
宝洞上中下ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

なり中へ四ツ棒をつゝぬきとをりうえて
をかうつくも同一事にてこのでくはう
ゆるいろ男うたおもしろきをかくいろ
ゆ曠男といえいろとも云たれば男乃
暑無くまの貧なるよりはれ物くきて
かをしをとゝくうんとたゝんだりうてあし
ゝをうごくゆゑしかつてかゝりのへ
をのくらうあるゆゑくあて。面てゆる

なる者う時ようさ一時ようあらうを無乙
うゆゝくゝきかりくゝゆゆびうゝ切ゝ又年
明ゝくゝ二月亦星の者あるゆくゝ今で今の
ゝ人ゝ今ゝれくゝ女房にるりくゝるりのゝ
星ゝを切の者ゝうゝれゝゝいゝ
下の宮ゝ処乃同ゝいゝ会星ゝの宮ゝ殺ゝ迎
ゝ中ゝ年れゝ七夜ゝ年ゝ月ゝ者ゝ
ゝ中ゝ同ゝ女ゝ中ゝ月ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]立つの[illegible]書

一 [illegible]を[illegible]さば

一 [illegible]を[illegible]さば

一 [illegible]を[illegible]さば

一 [illegible]を[illegible]さば

一 [illegible]を[illegible]さば

[illegible]の[illegible]一[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同じなれば、さてさてかの人間を殺へ
だ死なうとさえ死の法へ進と考へまで
こつそく利益なり一文字といふ儀をこれと
見ひんたりく中の宝を大のてとこそ
なるべし深ざるに星さぶ考へてやうて
しかりくおのをこれを通ぶ切ちを
をを考へでそのあとの夜まで惜られるへ
よくく行ぶすべしと再へ又中の月より慶

和さまきんぢにてきこしめしたるゆゑいた
付今宴をいつくしくしたりのうれしい極
てしよりてもあらせうちすりのくてあを
つくるべきよりべたるものくんぢ通ず
まんぢ者さりの世のるあをとてきこんする
をひとこんぢをすゆるよいすく歩
きくとりく今宴をいつくしてつるかをうう
紙いあくく賀の祝くくよ彦へ手なげかり

くなあ庭賀の今宴て別よりのけても
あをれぢをれぢきたぢくしくりとるて
してかくひが死ぬものとれへあをでうきをへ
りまくくへ今賀宴をも廊の今宴はまする
あくくひなれべずのくんぢとう義理をせあをう
にいうくりうてあり引べまたあうくみうくへ
ふひたきるよ死イ多へ世あのめうれべ
とりふ計句くをヤ七のをとかんぢへぢ

なりゆきてつぎよりこぶにしたがへ来
世すぐるまれすぐくと物のふるみ
まぶせひろひ事望まも秋すひまふ
西瀧と祝さゆるさべ世房ひまーえんりう
しそうんうーこうにんのたりり
何といふ世房にするまぞたあとあんえん
せあうにたべーそれべうるれべまぐ
ーこびの間よみうべびへ兵まりて牛り

ゆうその家ふの世ふまうまく海を
だーそーでおりよりたのぐぶやうびよて
うまううまうまべうまーさおのろ
こもー儀ゆうべーこうを門田おうひべん稲
をうるくひひり西のべ新くまをを
うんぞんの世房にするに付てびはこうそ
はまうべたよりうもひよ世ろうのこ
これうとうこうぐうーゆくー年明まで

あるきもうるれるものくこの一生なり
されべしくもこの国(晩き)春の間の月日のあと
をひろぐ此月日にその男子の若しむてす
ど春人(ロミミ)なるものくもこの記(ふみ)とへ金
ありてうきせず女房にすることもこびれ
(ちぎ)ものきうきまうこびるーあれば(ひく)ふの
乃使しこの辰の(たつ)ふ(ふ)ふ(ふ)ふ(ふ

法宝

一 已惣一切法同体事

一 妄身変言法界弁体事

一 連々事ノ無障ノ弁事

一 中庸清一中々庶幾ノ長法弁体事

一 無三乗教中ニ帰ト云事

一 亦仏無ニ法ヲ法界弁体事

一 世界ト儀理借ニ引中ニ弁ス

大通流踏

右之篠々於ニ相背者

梵天大借次第驕盡惣而日本

極通大通之人器淀藤屋（淀屋藤屋是）

両通之根元従ニ紀文大通人可

蒙ニ亦恥者也仍而起請文如件

是茂推梅笑向遠